

栃木県原水協ニュース

No 263号 2025年6月1日
原水爆禁止栃木県協議会
〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30
栃木県労連気付 電話 028-653-1401
メールアドレス: tcgken-gensuikyo@outlook.jp

2025年国民平和前行進県内行進日程決まる

月/日	自治体名	行進・行動内容	時間
6/28土	東輪寺（さくら市）	広島原爆の残り火の分灯式	10:00~11:00
	那須町	夕待地区福島県からの引き継ぎ式	14:00~14:30
	那須町	那須町役場前→那須町役場前	15:00~
	那須塩原市	旧黒磯市豊田町交差点・とりせん前	10:00~
	那須塩原市	旧西那須野町西幸町→永田駅前	10:00~
	大田原市	東武百貨店大田原店前交差点	11:30~
	那珂川町	かましん馬場駅前	10:00~
	那須烏山市	那須烏山市役所前	11:30~
	矢板市	ベイシティ矢板駅前	10:00~
	塩谷町	玉生バイパス交差点	11:15~
7/2水	さくら市	道の駅さくら市駅前	14:00~
	高根沢町	セブンイレブン高根沢光陽台駅前	15:30~
	高根沢町	高根沢町安井軒前で芳賀実行委員会へ引き継ぎ	17:00
	真岡市	真岡市役所→芳賀民主会館	10:30~
	芳賀町	芳賀町役場→祖母井軒前	13:30~
	市貝町	市貝町役場→市場駅前	15:00~
	茂木町	茂木町役場→茂木駅	10:30~
	益子町	益子町役場→共販センター	13:30~
	上三川町	上三川町役場前で県実行委員会へ引き継ぎ	16:20
	上三川町	上三川町役場→白鷺軒前→上三川町役場	17:00~
7/5土	宇都宮市	総合運動公園憩いの森・原爆慰霊碑前→東武上野原駅	9:00~11:30
	宇都宮市	明保緑地公園南東角→宮の橋	9:00~11:30
	日光市	足尾 足尾行政センター→足尾行政センター	13:00
	日光市	日光 日光行政センター→JR日光駅	14:25
	日光市	今市 道の駅ニゴニコ本陣→日光市役所	15:10
	鹿沼市	鹿沼市役所→まちなかの駅	10:30
	栃木市	栃木市西方総合支所前で県南実行委員会へ引き継ぎ	13:30
	佐野市	JR佐野駅前→佐野市役所	18:00~
	足利市	足利市民プラザ→ヨークベニマル→市民プラザ	10:00~
	栃木市	市民交流センター→市役所→市民交流センター	17:30~
7/10水	壬生町	壬生町中央公民館→蘭学通り→中央公民館	10:00~
	下野市	JR自治医大駅前→下野市役所	14:00~
	野木町	JR野木駅前→野木町役場	10:00~
	小山市	小山市役所→西口ロブレ→観音橋	17:30~
	久喜市栗橋	埼玉県引き継ぎ（利根川橋下河川敷集合 9:45）	10:30~11:00

第2回県平和行進実行委員会開催

5月17日（土）県労連事務所にて、第2回の県平和行進実行委員会が、各地域参加団体の代表者など11人の参加で開かれました。

●今年の平和行進の日程について各地区の実行委員会報告があり、後日に再確認後、左日程表の通り決定しました。

●自治体への申し入れ書の確認と那須塩原市の



「核兵器禁止条約参加を求める意見書」陳情採択の経緯・経験が語られ、他自治体の取り組みの参考となりました。

●今年の大会は栃木県として、宇都宮市を20人と目標としました。

宇都宮市6・9行動

5月9日、栃木県原水協と新婦人宇都宮支部は宇都宮市内のシンボルロードで、7人の参加で6・9行動を行いました。連休明けで人通りが少なく署名数も少なかったですが、70歳の女性は、「核兵器は絶対にいや。戦争はどうかできないか」と思っている。広島市の原爆資料館を見たときにも本心にひどいと思った」と、署名に応じしてくれました。



那須町の6・9行動

5月9日、那須町原水協で月例の6・9行動に取り組みました。「禁止条約参加署名」の訴えや、原水協新聞等で通りかかった人と対話を行いました。



また、年配のご夫婦は「なぜ日本は核兵器禁止条約に参加しないのか」と、男性が「日本はアメリカの核抑止論のもとで、参加できない。被爆国なんだから率先して参加すべきだ」と話しながら署名してくれました。



「原爆と俳句」について

被爆八十年の今年、宇都宮市内で開催の憲法記念日集会では対馬丸遭難についての発表の後に、武蔵大名菅教授の永田浩三さんによる「原爆と俳句」の講演がありました。戦後、歌人や俳人の戦争責任が問われたが、戦前でも戦争に抵抗した俳人もあったとして「戦争が廊下の奥に立ってゐた」などの句を紹介。治安維持法による弾圧がされた京大俳句事件についても紹介しました。原爆については進駐軍によるプレスコードもあり文学作品も公表できず、一九五四年のビキニ事件により原水爆禁止の署名運動が広がり、五六年には被団協も結成されました。この勢いで俳句発表も盛んになりさまざまな作品が生まれました。金子兜太「彎曲し火傷し爆心地のマラソン」や十歳の少女の遺作の「蟬鳴く正信ちゃんを思い出す」などを紹介しました。そして気軽に俳句を作ろう、言葉の持つ力を信じて平和を熱く語ろうと訴えました。

（天谷静雄）